

7. サードプレースの現状と健康増進の「場」としての可能性

研究分担者 村田千代栄 (国立長寿医療研究センター 社会参加・社会支援研究室長)

<要旨>

サードプレースは、自宅以外に居心地よく感じる場所であり、自宅と職場や学校の間を結び、非公式な出会いや、健康情報などのやり取りが生まれる場所ともなっている。20 歳から 64 歳の神戸市民を対象にした調査データ (n=5630) から、性に欠損のない者について分析を行った。サードプレースがあると回答した人は、男女ともに性 4 割弱であった。サードプレースには性・年齢階層差も見られ、50 歳以上では、男性は飲み屋、女性は習い事や趣味をあげる人が多く、20 から 34 歳では、男性では習い事や趣味、女性ではカフェをあげる人が多かった。

サードプレースがある人の特徴として、無配偶・飲酒・非喫煙者・精神的健康度良好であることがあげられ、女性に限っては、高所得・無職であることも関連していた。しかし、サードプレースによっては、飲み屋など喫煙者や肥満者が多く集積する場所もあった。社会的に排除されがちな人々でも、リスクの有無を問わず気軽に集えるサードプレースは、健康増進や市民の交流の場となるだけでなく、健康格差縮小に役立つ可能性がある。今後、サードプレースを健康の場として活用するためには、聞き取りなど質的検討による情報収集も有用であろう。

神戸市の行った調査に協力して集計・分析を実施した。データの研究への二次利用について神戸市の倫理審査委員会の承認手続き中であるため、神戸市に報告済みの要旨のみ掲載した。神戸市の報告書は巻末の参考資料を参照のこと。